



2020年10月 9日
第42号

JR 東労組 Yokohama

JR東労組横浜地本

発行人 助川一実

編集情宣担当

ホームページ

<http://www.jreu-yokohama1.jp/>



私たちの生活を守りJR東日本の黒字経営を目指すために 年末手当について仲間と議論し声をあげよう！

日々のニュースの中で、各企業などの年末手当に関するニュースも聞かれるようになりました。JR東日本も2021年3月期は4180億円の赤字という業績予想を出しており、人件費も前年度に比べ304億円減と示しています。

このような現実の中で、私たちの生活を守りながらもJR東日本の経営も黒字にするために、社会情勢を正しく理解し、職場議論から今後の年末手当交渉を支えていきましょう。

年末手当に関する主なニュース

オリエンタルランドは正社員と嘱託社員の冬の賞与を7割削減すると明らかにした。対象は約4千人。 *東京ディズニーランド・東京ディズニーシーの運営会社

(千葉日報 2020年9月15日)

スカイマークが冬の賞与見送り 定期代も廃止へ

(東京新聞 2020年9月17日)

JR西、ボーナス最低提示、1.5か月 組合は協議へ

(共同通信 2020年10月2日)

ハワイアンズ、経営悪化 全社員を対象に冬の賞与を50%カットする方針

(読売新聞オンライン 2020年10月7日)

ANA年収3割減 労組に提案 冬の一時金ゼロ

(毎日新聞 2020年10月8日)

政府、公務員のボーナス減を協議 人事院勧告受け官僚ら

(共同通信 2020年10月9日)

子育てをしていたり、自宅のローンを抱えていたりする仲間もいます。しかし、JR東日本が赤字で経営危機というのも事実です。

働く私たちが安心できる暮らしとJR東日本の黒字経営の両方を実現するために、年末手当交渉をどのようにつくり出すか、職場で議論し声をあげてください。東労組の仲間と共に、安全・健康・ゆとり・働きがいのある職場を目指しましょう。



JR東労組だからできる！ 職場の声をもとに団体交渉をつくり出そう！